

日本体育協会 スポーツ指導者育成関係 概要

公認スポーツ指導者育成の基本コンセプト

日本体育協会及び加盟団体等は、「スポーツ立国」の実現を目指し、生涯を通じた快適なスポーツライフの構築を図ることを通して、望ましい社会の実現に貢献するため、その推進の中心となるスポーツ指導者を養成する。

日本体育協会 公認スポーツ指導者とは

日本体育協会及び加盟団体等が、公認スポーツ指導者制度に基づき資格認定する指導者とは、常にプレーヤーを最優先するというスタンスに立ち、スポーツ医・科学の知識を活かし、「スポーツを安全に、正しく、楽しく」指導し、「スポーツの本質的な楽しさ、素晴らしさ」を伝えることのできる者である。

望ましい公認スポーツ指導者とは

公認スポーツ指導者は、日常の「生活／暮らし」にスポーツを取り入れることによって「豊かな人生」を得られることを広く一般に定着させるとともに、「仲間と楽しく行いたい」「うまくなりしたい、強くなりしたい」さらに「健康になりたい、長生きしたい」という欲求に応えられるよう、その実現に向けて「サポートする」活動を通して、望ましい社会の実現に貢献するという役割を持つ。

また、常に自己研鑽を図り、自ら成長・発展するとともに、社会的評価が得られるよう努力することが重要である。

安全で、正しく、楽しいスポーツ活動の場を確保するために

- スポーツに対して情熱を持ち、常にプレーヤーを最優先し、何事にも前向きに取り組む
- すべてのプレーヤーに対して常に公平な態度で接し、また参加したくなるような雰囲気を作る
- すべてのプレーヤーの個性や長所を見つけ、伸ばす
- 一方的、強制的な指導にならないよう、コミュニケーションスキルを高め、活動のねらいや内容についてプレーヤーと共有する
- 発育発達段階や技能レベルに即した指導計画と指導方法を工夫する
- プレーヤーの健康状態に注意をはらい、ケガや病気を起こさないよう配慮する
- 天候や活動場所の整備状況、道具・用具の手入れや施設の破損確認などに配慮する

※「スポーツ立国」：スポーツの持つ力が、望ましい地域社会の実現に貢献するとともに、スポーツにかかわる自立・自律した人々の主体的かつ自治的なスポーツ実践や運動(ムーブメント)を通して、国内はもとよりアジア近隣諸国から地球規模へと拡がることによって、「スポーツ宣言日本」が目指す社会像の実現に寄与していくこと。

<目次>

| | |
|---------------------------------|----|
| 1. スポーツ指導者育成のあゆみ | 4 |
| 2. 指導者養成状況 | 7 |
| (1) 日体協が養成している指導者資格 | 7 |
| (2) 指導者養成講習会の実施状況 | 11 |
| (3) 各団体の指導者養成状況 | 11 |
| (4) 指導者養成講習会のカリキュラム | 13 |
| (5) 免除適応コースの実施状況 | 15 |
| 3. 公認スポーツ指導者の登録状況 | 15 |
| (1) 登録者数 | 15 |
| (2) 更新のための義務研修 | 18 |
| 4. 公認スポーツ指導者の活用状況 | 19 |
| (1) 総合型地域スポーツクラブにおける資格保有率 | 19 |
| (2) 大会等における資格保有義務付け状況 | 19 |
| (3) 中学校・高校教員の活動状況 | 21 |

1. スポーツ指導者育成のあゆみ

- 日体協では、生涯スポーツ社会の実現を図るため、スポーツ実施者の多様なニーズに対応して、適切な指導のできる資質の高いスポーツ指導者の養成を、中央競技団体及び都道府県体育協会と連携して、昭和 40(1965)年から継続的に実施している。
- 昭和 63(1988)年から国の「社会体育指導者の知識・技能審査事業」に基づくスポーツ指導者養成を開始した。その後平成 12(2000)年 4 月からスポーツ振興法第 11 条「指導者の充実」(国及び地方公共団体は、スポーツの指導者の養成及びその資質の向上のため、講習会、研究集会等の開催その他の必要な措置を講ずるよう努めなければならない。)に基づく実施省令として「スポーツ指導者の知識・技能審査事業」となった。
- しかし、同年 12 月に「行政改革大綱」が閣議決定されると、平成 17 年度末をもって同事業の廃止が決定した。日体協は、同事業の廃止に伴い、1 年前倒して平成 17 年度より公認スポーツ指導者制度を改定し、新たなスタートをきった。
- 現在 5 領域 16 資格の指導者(詳細は P7 の表 1 を参照)を養成しており、資格により受講人数は異なるが、毎年約 9 千名(スポーツリーダーを除く)が受講している。

<スポーツ指導者育成事業のあゆみ>

| | |
|---------------------|--|
| 1965 年 (昭和 40 年) | スポーツトレーナーの養成スタート。 東京オリンピックでの競技者育成・強化のノウハウを全国へ。スポーツ医・科学に立脚したスポーツトレーナーの養成を開始。第 1 回講習会を岸記念体育会館講堂で実施。 |
| 1971 年 (昭和 46 年) | スポーツ指導員の養成スタート。 国民スポーツの広がりを受けて、競技力向上のための指導者だけでなく、地域スポーツ振興のための指導者養成を開始。 |
| 1977 年 (昭和 52 年) | 「財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者制度」を創設。 指導者の役割に応じた資格認定と指導体制の確立を目的として、加盟団体と一致協力して「公認スポーツ指導者制度」を制定。新たな発想のもとに共通科目と専門科目を学ぶ、スポーツ指導員、コーチ、上級コーチの養成を開始。 |
| 1979 年 (昭和 54 年) | 全国スポーツ指導者連絡会議が発足。 全国のスポーツ指導者による①自らの資質の向上、②指導方針の徹底、③活動環境の整備、を目的として全国のスポーツ指導者の活動を促進するために協議する場を作った。 |
| 1982 年 (昭和 57 年) | スポーツドクターの養成スタート。 スポーツ競技者のケアにあたっている臨床医を対象にスタートした「スポーツ関係臨床医相互研修会(1978 年)」から「公認スポーツドクター設置要項」に基づいたスポーツドクター制度として、スポーツドクターの養成を開始。 |
| 1986 年 (昭和 61 年) | 文部省保健体育審議会が「社会体育指導者の資格付与制度」を国に建議。 文部省保健体育審議会がスポーツ指導者の資格付与制度に関し、国がこの建議に基づき同制度の整備に努めることを要望した。 |

| | |
|------------------|---|
| 1987年 (昭和62年) | 文部大臣が「社会体育指導者の知識・技能審査事業に関する規程」を告示。 文部省保健体育審議会の建議を受け、国が示す一定の基準を満たす事業を実施できる団体を認定する事業認定制度が創設された。 |
| 1988年 (昭和63年) | 「財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者制度」を改訂。 国の「社会体育指導者の知識・技能審査事業に関する規程」に基づく制度に改訂。 |
| 1989年 (平成元年) | 地域スポーツ指導者(C・B・A級スポーツ指導員)、競技力向上指導者(C・B・A級コーチ)が事業認定され、養成スタート |
| 1990年 (平成2年) | 商業スポーツ施設における指導者(C・B・A級教師)が事業認定され、養成スタート |
| 1992年 (平成4年) | スポーツプログラマー1種・2種(スポーツプログラマー、フィットネストレーナー)、少年スポーツ指導者(少年スポーツ指導員・少年スポーツ上級指導員)が事業認定され、養成スタート |
| 1994年 (平成6年) | アスレティックトレーナーの養成スタート |
| 1995年 (平成7年) | 指導者育成30周年を記念して、「公認スポーツ指導者全国研修会」を開始。 「財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者等表彰要項」を制定し、第1回表彰式を公認スポーツ指導者全国研修会で実施。 |
| 1998年 (平成10年) | アスレティックトレーナーが事業認定 |
| 2000年 (平成12年) | 4月:文部大臣認定による「社会体育指導者の知識・技能審査事業」が、スポーツ振興法の第11条実施省令として「スポーツ指導者の知識・技能審査事業」となる。 スポーツ指導者の養成が、スポーツ振興法に基づく省令として位置づけられ、スポーツ指導者の重要性と期待が高まると同時に、その責任も重くなった。 6月:21世紀に向けた制度の見直し作業をスタート。スポーツ指導者制度の更なる充実を図るため、財団法人日本体育協会指導者育成専門委員会内に「指導者制度検討プロジェクト」を設置。 9月:文部省が「スポーツ振興基本計画」を策定。 12月:「行政改革大綱」が閣議決定。 「行政改革大綱」の中で「公益法人に対する行政の関与の在り方の改革」が示され、公益法人が実施する制度等は社会的に定着、信頼性が確保できている。制度等が多種多様化し、行政による客観的評価が困難で、国民にも分かりにくい。国の責任での事務・事業であるかのような誤解を与える。お墨付きがなければ安心できないという意識を改革していく等の理由から、いわゆる「お墨付き」の廃止が決定された。 「スポーツ指導者の知識・技能審査事業に関する規程」も平成17年度末を持って廃止となることが決定。 |

| | |
|---------------------|---|
| 2004 年 (平成 16 年) | 「これからの指導者育成事業の推進方策」を策定。生涯スポーツ社会の実現を目指す。 「21 世紀の国民スポーツ振興方策」に基づき、10 年間の指導者育成事業の指針を示した。 |
| 2005 年 (平成 17 年) | 「財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者制度」を改定。 |
| 2006 年 (平成 18 年) | アシスタントマネジャー、クラブマネジャーの養成スタート |
| 2008 年 (平成 20 年) | スポーツ栄養士の養成スタート |
| 2011 年 (平成 23 年) | 公益財団法人日本体育協会創立 100 周年。 今後 100 年のスポーツが果たすべき社会的使命を謳った「スポーツ宣言日本」を採択。 |
| 2012 年 (平成 24 年) | 「スポーツ指導者育成事業推進プラン 2013」を策定。スポーツ立国の実現を目指す「21 世紀の国民スポーツ推進方策ースポーツ推進 2013」に基づき 2013 年から 5 年間の指導者養成の指針を示した。 |
| 2013 年 (平成 25 年) | スポーツデンティストの養成スタート。 「スポーツ界における暴力行為根絶宣言」を日本体育協会、日本オリンピック委員会、日本障がい者スポーツ協会、全国高等学校体育連盟、日本中学校体育連盟の 5 団体が採択。 |
| 2014 年 (平成 26 年) | 「公益財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者制度」、「公益財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者登録規程」及び「同細則」の一部を改訂。 「日本体育協会公認スポーツ指導者処分基準」及び「日本体育協会公認スポーツ指導者処分基準 別表」を制定。昨今の指導者による暴力行為に対して資格の処分内容を明確化した。 |
| 2015 年 (平成 27 年) | 12 月 13 日(日):指導者育成 50 周年を記念し、記念式典、特別表彰を実施。 50 周年を契機にスポーツ指導者育成の目指す方向性を表明するメッセージを発表。 |
| 2016 年 (平成 28 年) | 「公認スポーツ指導者制度検討プロジェクト」の設置。 公認スポーツ指導者制度改定後 10 年が経過し、国の動向を踏まえ、各資格の役割、カリキュラム、養成形態の見直し、教材の見直し、講師養成(講師基準の見直し)など検討し、日本スポーツ界として方向性を共有した「世界に誇れる指導者制度」の確立を目指す。 |

2. 指導者養成状況

(1) 日体協が養成している指導者資格

- ・ 日本体育協会及び加盟団体等は、「スポーツ立国」の実現を目指し、生涯を通じた快適なスポーツライフの構築を図ることを通して、望ましい社会の実現に貢献するため、その推進の中心となるスポーツ指導者を育成している。
- ・ 公認スポーツ指導者とは、常にプレーヤーを最優先するというスタンスに立ち、スポーツ医・科学の知識を活かし、「スポーツを安全に、正しく、楽しく」指導し、「スポーツの本質的な楽しさ、素晴らしさ」を伝えることのできる者である。
- ・ 公認スポーツ指導者は、日常の「生活／暮らし」にスポーツを取り入れることによって「豊かな人生」を得られることを広く一般に定着させるとともに、「仲間と楽しく行いたい」「うまくなりたい、強くなりたい」さらに「健康になりたい、長生きしたい」という欲求に応えられるよう、その実現に向けて「サポートする」活動を通して、望ましい社会の実現に貢献するという役割を持つ。また、常に自己研鑽を図り、自ら成長・発展するとともに、社会的評価が得られるよう努力することが重要である。
- ・ 公認スポーツ指導者制度では、年齢（発育発達段階）や技能レベル、興味や志向など多様なスポーツ活動に対応するため、指導対象や活動拠点を考慮し、5領域16種類の資格を養成している。

表 1. 日体協が養成している指導者資格

スポーツ指導基礎資格

| 資格 | 役割 | 認定により備えられる知識と能力 | カリキュラム |
|-------------------|--|--------------------------------------|------------|
| スポーツリーダー 18歳以上 | ・ 地域におけるスポーツグループやサークルなどのリーダーとして、基礎的なスポーツ指導や運営にあたる。 | ・ スポーツに関する基礎的知識 ・ ボランティアに関する基礎的知識 | 共通 I : 35h |

競技別指導者資格

| 資格 | 役割 | 認定により備えられる知識と能力 | カリキュラム |
|--------------|--|---|---------------------------|
| 指導員 18歳以上 | ・ 地域スポーツクラブ等において、スポーツに初めて出会う子どもたちや初心者を対象に、競技別の専門的知識を活かし、個々人の年齢や性別などの対象に合わせた指導にあたる。 ・ 特に発育発達期の子どもに対しては、総合的な動きづくりの主眼を置き、遊びの要素を取り入れた指導にあたる。 ・ 地域スポーツクラブ等が実施するスポーツ教室の指導にあたる。 ・ 施設開放において利用者の指導支援を行う。 | ・ スポーツに関する基礎的知識 ・ ボランティアに関する基礎的知識 ・ 競技者育成プログラムの理念と方法 ・ 初心者に対する基礎的指導法 | 共通 I : 35h 専門 : 40h 以上 |

| | | | |
|------------------------|---|---|--------------------------------------|
| <p>上級指導員 22歳以上</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・地域スポーツクラブ等において、年齢、競技レベルに応じた指導にあたる。 ・事業計画の立案などクラブ内指導者の中心的な役割を担う。 ・地域スポーツクラブ等が実施するスポーツ教室の指導において中心的な役割を担う。 ・広域スポーツセンターや市町村エリアにおいて競技別指導にあたる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・競技者育成プログラムの理念と方法 ・多様な能力やニーズに対する指導法 ・スポーツ教室や各種イベントの企画立案 ・組織の育成に関する知識 | <p>共通Ⅰ＋Ⅱ：70h 専門：20h以上</p> |
| <p>コーチ 20歳以上</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・地域において、競技者育成のための指導にあたる。 ・広域スポーツセンターや各競技別のトレーニング拠点において、有望な競技者の育成にあたる。 ・広域スポーツセンターが実施する地域スポーツクラブの巡回指導に協力し、より高いレベルの実技指導を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・競技者育成プログラムの理念と方法 ・国内大会レベルの競技者に対する高度な指導法 | <p>共通Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ：152.5h 専門：60h以上</p> |
| <p>上級コーチ 22歳以上</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ナショナルレベルのトレーニング拠点において、各年代で選抜された競技者の育成強化にあたる。 ・国際大会等の各競技会における監督・コーチとして、競技者が最高の能力を発揮できるよう、強化スタッフとして組織的な指導にあたる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・競技者育成プログラムの理念と方法 ・国際大会レベルの競技者に対する高度な指導法 | <p>共通Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ＋Ⅳ：192.5h 専門：40h以上</p> |
| <p>教師 20歳以上</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・民間スポーツ施設等において、競技別の専門的指導者として、質の高い実技指導を行う。 ・会員（顧客）が満足できるよう、個々人の年齢や性別、技能レベルやニーズなどに合わせたサービスを提供する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・競技者育成プログラムの理念と方法 ・多様な能力やニーズに対応する高度な指導法 ・ホスピタリティに関する知識 ・民間スポーツ施設等の経営に関する基礎的知識 | <p>共通Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ：152.5h 専門：80h以上</p> |
| <p>上級教師 22歳以上</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・民間スポーツ施設等において、競技別の専門的指導者として質の高い実技指導を行う。 ・会員（顧客）が満足できるよう、個々人の年齢や性別、技能レベルやニーズなどに合わせたサービスを提供する。 ・各種事業に関する計画の立案、指導方針の決定など組織内指導者の中心的役割を担う。 ・地域スポーツ経営のためのコンサルティングならびに経営受託の企画・調整を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・競技者育成プログラムの理念と方法 ・多様な能力やニーズに対応する高度な指導法 ・スポーツ教室や各種イベントの企画立案 ・組織の育成に関する知識 ・民間スポーツ施設等の健全な経営能力 | <p>共通Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ＋Ⅳ：192.5h 専門：60h以上</p> |

フィットネス系資格

| 資格 | 役割 | 認定により備えられる知識と能力 | カリキュラム |
|----------------------|---|--|---------------------|
| ジュニアスポーツ指導員 20歳以上 | ・地域スポーツクラブ等において、幼・少年期の子どもたちに遊びを通じた身体づくり、動きづくりの指導を行う。 | ・幼・少年期における活動プログラムに関する知識 ・発育・発達過程の心と身体の特徴を踏まえた指導法 | 共通Ⅰ：35h 専門：40h |
| スポーツプログラマー 20歳以上 | ・主として青年期以降のすべての人に対し、地域スポーツクラブなどにおいて、フィットネスの維持や向上のための指導・助言を行う。 | ・フィットネスの維持や向上のための指導能力 ・フィットネスの維持や向上に関するプログラムを企画する能力 ・スポーツ相談に関する能力 ・体力測定に関する能力 | 共通Ⅰ＋Ⅱ：70h 専門：63h |
| フィットネストレーナー 20歳以上 | ・民間スポーツ施設において、スポーツ活動を行う者に対する相談及び指導助言を行う。 | ・フィットネスの維持や向上のための指導能力 ・フィットネスの維持や向上に関するプログラムを企画する能力 ・スポーツ相談に関する能力 ・体力測定に関する能力 | 現在は新規養成していない |

※フィットネストレーナーについては、現在養成講習会を開催していない

メディカル・コンディショニング資格

| 資格 | 役割 | 認定により備えられる知識と能力 | カリキュラム |
|----------------|--|--|--------------------------------------|
| スポーツドクター | ・スポーツマンの健康管理、スポーツ障害、スポーツ外傷の診断、治療、予防研究等にあたる。 ・競技会等における医事運営ならびにチームドクターとしてのサポートにあたる。 ・スポーツ医学の研究、教育、普及活動等とおして、スポーツ活動を医学的な立場からサポートする。 | ・スポーツ医・科学に関する専門的知識 ・アンチ・ドーピングに関する専門的知識 ・運動処方に関する専門的知識 | 基礎：25単位(25h) 応用：27単位(27h) |
| スポーツ デンティスト | ・歯科医師の立場からスポーツマンの健康管理、歯科口腔領域のスポーツ障害、スポーツ外傷の診断、治療、予防、研究等にあたる | ・スポーツ医・科学に関する専門的知識 ・スポーツに関する歯科の専門的知識 ・スポーツにおけるマウスガード位に関する知識と作成方法 | 医科共通：25単位(25h) スポーツ歯科医学：21単位(23h) |

| | | | |
|----------------------------|---|--|-------------------------------------|
| アスレティック トレーナー 20 歳以上 | <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツドクター及びコーチとの緊密な協力のもとに、アスリートの健康管理、傷害予防、スポーツ外傷・障害の救急処置、アスレティックリハビリテーション及び体力トレーニング、コンディショニング等にあたる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・機能解剖・運動学的な知識 ・スポーツ外傷の救急処置に関する知識と技能 ・スポーツ傷害の予防対策に関する知識と技能 ・アスリートのスポーツ現場復帰への援助に関する知識と技能 ・アスリートのコンディショニングに関する知識と技能 | <p>共通Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ：152.5h 専門：600h</p> |
| スポーツ栄養士 22 歳以上 | <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ活動現場において、競技者の栄養・食事に関する専門的なサポートにあたる。 ・競技者の栄養・食事に関する自己管理能力を高める栄養教育を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ医・科学に関する専門的知識 ・スポーツ栄養に関する専門的知識 ・他の専門職と連携する能力 ・競技者に対する栄養教育／栄養指導を实践する能力 ・競技者の栄養管理マネジメント能力 | <p>共通Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ：152.5h 専門：116.5h</p> |

マネジメント資格

| 資格 | 役割 | 認定により備えられる知識と能力 | カリキュラム |
|---------------------------|---|--|------------------------------|
| アシスタントマネ ジャー 20 歳以上 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域スポーツクラブにおいて、クラブ員が充実したクラブライフを送ることができるよう、組織経営のための諸活動をサポートする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツに関する基礎的知識 ・地域スポーツクラブのマネジメントに関する基礎的知識を有し、協働できる能力 | <p>共通Ⅰ：35h 専門：35h</p> |
| クラブマネジャー 20 歳以上 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域スポーツクラブにおいて、クラブ会員が継続的に快適なクラブライフを送ることができるよう健全なクラブ経営を行う。 ・地域スポーツクラブの活動が円滑に行われるために必要な競技別指導者、フィットネス系指導者、メディカル・コンディショニング指導者などのスタッフがそれぞれの役割に専念できるような環境を整備する | <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツに関する基礎的知識 ・地域スポーツクラブ創設のためのマネジメント能力 ・地域スポーツクラブの健全な経営のためのマネジメント能力 ・事業の計画立案能力、各種資源の調達活用能力、情報収集・分析能力 | <p>共通Ⅰ：35h 専門：167.5h</p> |

(2) 指導者養成講習会の実施状況

- ・ 受講形態や時間数は、資格によって異なり、原則として共通科目を日体協が、専門科目を各競技団体等が実施している。
- ・ 日体協が実施する共通科目については、共通科目Ⅰは通信講座で実施し、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳは集合講習会および自宅学習となっている。専門科目の実施形態は、競技・資格によって異なるが、それぞれの競技・資格特性を踏まえた内容で構成されている。

(3) 各団体の指導者養成状況

- ・ 表2に示すとおり、現在、64の日体協加盟・準加盟団体および関係団体が公認スポーツ指導者制度に基づき指導者の養成を実施している。

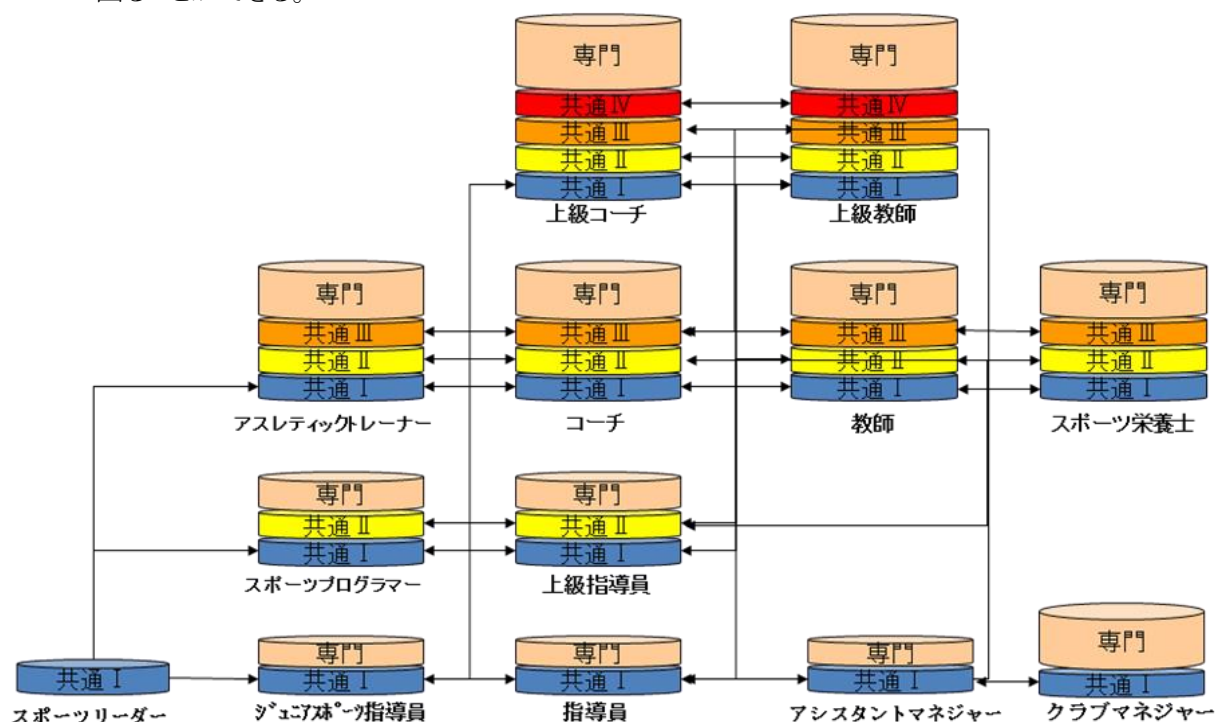
表 2. 各団体における指導者養成状況

| | 団体名 | 種目 | 指導員 | | コーチ | | 教師 | |
|---|-----------------------|------------|-----|-------|-----|-------|---------------|------|
| | | | 指導員 | 上級指導員 | コーチ | 上級コーチ | 教師 | 上級教師 |
| 1 | 日本陸上競技連盟 | | ○ | — | ◎ | — | — | — |
| 2 | 日本水泳連盟 | | ○ | ◎ | ○ | ◎ | ○ | ○ |
| 3 | 日本サッカー協会 | サッカー | ○ | — | ◎ | ◎ | — | — |
| | | フットサル | ○ | — | ◎ | — | — | — |
| 4 | 全日本スキー連盟 | スキー | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | | スノーボード | — | — | ○ | ○ | — | — |
| 5 | 日本テニス協会 | | ○ | ◎ | ○ | ◎ | ○ | ◎ |
| 6 | 日本ボート協会 | | ○ | — | ○ | ○ | — | — |
| 7 | 日本ホッケー協会 | | ○ | ◎ | ○ | ◎ | — | — |
| 8 | 日本ボクシング連盟 | | — | — | ○ | ●◎ | — | — |
| 9 | 日本バレーボール協会 | | ○ | ○ | ○ | ◎ | — | — |
| 10 | 日本体操協会 | 体操 | ○ | ◎ | — | — | — | — |
| | | 体操競技 | — | — | ○ | ◎ | — | — |
| | | 新体操 | — | — | ○ | ◎ | — | — |
| | | トランポリン | — | — | ○ | — | — | — |
| 11 | 日本バドミントン協会 | | ○ | — | ◎ | ◎ | — | — |
| 12 | 日本スケート連盟 | | ○ | — | ○ | ●◎ | ● | — |
| 13 | 日本レスリング協会 | | ○ | — | ○ | — | — | — |
| 14 | 日本セーリング連盟 | | ○ | ◎ | ○ | ◎ | — | — |
| 15 | 日本ウエイトリフティング協会 | | ○ | — | ○ | ●◎ | — | — |
| 16 | 日本ハンドボール協会 | | ○ | ◎ | ○ | ○ | — | — |
| 17 | 日本自転車競技連盟 | | ○ | — | ○ | ◎ | — | — |
| 18 | 日本ソフトテニス連盟 | | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | — | — |
| 19 | 日本卓球協会 | | ○ | ○ | ○ | ○ | — | — |
| 20 | 全日本軟式野球連盟 | | ○ | — | ○ | — | — | — |
| 21 | 日本相撲連盟 | | ○ | — | ○ | — | — | — |
| 22 | 日本馬術連盟 | | ○ | — | ○ | ●◎ | — | — |
| 23 | 全日本柔道連盟 | | ○ | — | ○ | — | — | — |
| 24 | 日本ソフトボール協会 | | ○ | ◎ | ○ | ◎ | — | — |
| 25 | 日本フェンシング協会 | | ○ | — | ○ | ◎ | — | — |
| 26 | 日本バドミントン協会 | | ○ | ○ | ○ | ◎ | — | — |
| 27 | 全日本弓道連盟 | | ○ | ◎ | ● | — | — | — |
| 28 | 日本ライフル射撃協会 | | ○ | ◎ | ○ | ●◎ | — | — |
| 29 | 全日本剣道連盟 | | ○ | ◎ | — | — | — | — |
| 30 | 日本近代五種協会 | | — | — | — | — | — | — |
| 31 | 日本ラグビーフットボール協会 | | ○ | — | — | — | — | — |
| 32 | 日本山岳・スポーツクライミング協会 | 山岳 | ○ | ○ | ● | ●◎ | — | — |
| | | スポーツクライミング | ○ | ○ | ○ | — | — | — |
| 33 | 日本カヌー連盟 | | ○ | — | ○ | ○ | — | — |
| 34 | 全日本アーチェリー連盟 | | ○ | ◎ | ◎ | — | — | — |
| 35 | 全日本空手道連盟 | | ○ | — | ○ | ○ | — | — |
| 36 | 日本アイスホッケー連盟 | | ○ | — | ● | — | — | — |
| 37 | 全日本銃剣道連盟 | | ○ | ◎ | ●◎ | — | — | — |
| 38 | 日本クレー射撃協会 | | ○ | — | — | — | — | — |
| 39 | 全日本なぎなた連盟 | | ○ | ○ | ● | ● | — | — |
| 40 | 全日本ボウリング協会 | | ○ | ◎ | ○ | ◎ | ◎ | ●◎ |
| 41 | 日本バドミントン・リュージュ・スラット連盟 | | — | — | ○ | ○ | — | — |
| 42 | 日本野球連盟 | | — | — | — | — | — | — |
| 43 | 日本綱引連盟 | | ○ | — | — | — | — | — |
| 44 | 少林寺拳法連盟 | | — | — | — | — | — | — |
| 45 | 日本ゲートボール連合 | | ○ | ◎ | — | — | — | — |
| 46 | 日本武術太極拳連盟 | | — | — | — | — | — | — |
| 47 | 日本ゴルフ協会 | | ○ | — | — | — | — | — |
| 48 | 日本カーリング協会 | | ○ | ◎ | ● | ●◎ | — | — |
| 49 | 日本バウリング協会 | | ○ | — | — | — | — | — |
| 50 | 日本オリエンティング協会 | | — | — | — | — | — | — |
| 51 | 日本ケラウンドゴルフ協会 | | ○ | — | — | — | — | — |
| 52 | 日本トライアスロン連合 | | ○ | — | — | — | — | — |
| 53 | 日本バウンドテニス協会 | | ○ | ○ | — | — | — | — |
| 54 | 日本エアロビック連盟 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ● |
| 55 | 日本バイアスロン連盟 | | — | — | — | — | — | — |
| 56 | 日本スポーツチャンバラ協会 | | — | — | — | — | — | — |
| 57 | 日本ドッジボール協会 | | ○ | — | — | — | — | — |
| 58 | 日本チャリティーディング協会 | | ○ | ◎ | ◎ | — | — | — |
| 59 | 日本ベタンク・プール連盟 | | — | — | — | — | — | — |
| ●カリキュラムは存在するが、現状は養成していない ◎昇格前の資格を持っていないと上級受講不可 | | | | | | | | |
| <準加盟団体> | | | | | | | | |
| | 団体名 | 種目 | 指導員 | | コーチ | | 教師 | |
| | | | 指導員 | 上級指導員 | コーチ | 上級コーチ | 教師 | 上級教師 |
| 60 | 日本ローラースケート連盟 | | ○ | — | — | — | — | — |
| 61 | 日本ゲインズスポーツ連盟 | | ○ | — | ○ | — | — | — |
| 62 | 日本アメリカンフットボール協会 | | ○ | — | ○ | — | — | — |
| <プロスポーツ団体> | | | | | | | | |
| | 団体名 | 種目 | 指導員 | | コーチ | | 教師 | |
| | | | 指導員 | 上級指導員 | コーチ | 上級コーチ | 教師 | 上級教師 |
| | 日本スイミングクラブ協会 | | — | — | — | — | 日本水泳連盟と協同実施 | |
| TC | 日本プロスキー教師協会 | | — | — | — | — | 全日本スキー連盟と協同実施 | |
| TB | 日本プロテニス協会 | | — | — | — | — | 日本テニス協会と協同実施 | |
| TA | 日本プロゴルフ協会 | | — | — | — | — | ● | ● |
| | 団体名 | 種目 | 指導員 | | コーチ | | 教師 | |
| | | | 指導員 | 上級指導員 | コーチ | 上級コーチ | 教師 | 上級教師 |
| 63 | 社会スポーツセンター | | ○ | ◎ | — | — | — | — |
| * | スポーツプログラマー | | ○ | — | — | — | — | — |
| * | フィットネストレーナー | | — | — | — | — | — | — |
| * | ジュニアスポーツ指導者 | | ○ | — | — | — | — | — |
| * | スポーツドクター | | ○ | — | — | — | — | — |
| * | アスレティックトレーナー | | ○ | — | — | — | — | — |
| * | アシスタントマネジャー | | ○ | — | — | — | — | — |
| * | クラブマネジャー | | ○ | — | — | — | — | — |
| * | スポーツ栄養士 | | ○ | — | — | — | — | — |
| * | スポーツデンティスト | | ○ | — | — | — | — | — |
| ●カリキュラムは存在するが、現状は養成していない ◎昇格前の資格を持っていないと上級受講不可 | | | | | | | | |

(4) 指導者養成講習会のカリキュラム

①カリキュラム構成

- ・ スポーツ一般に関する共通科目と競技または資格の専門性などに特化した専門科目をそれぞれ設けている。
- ・ 共通科目を実施することにより、すべての指導者が一定のレベルにおいて、共通知識と共通言語を持ち合わせることができ、専門科目によりさらに具体的な指導能力の向上を図ることができる。



②共通科目カリキュラム

| 区分 | 科目名 | 内容 | 時間数 | | |
|-----------------|----------------------------|---------------------------------|------|------|------|
| | | | 集合 | 自宅学習 | 計 |
| 共通科目 I | 文化としてのスポーツ | スポーツの概念と歴史 | 1.5 | 2.25 | 3.75 |
| | | 文化としてのスポーツ | | | |
| | 指導者の役割 I | スポーツ指導者とは | 2 | 3 | 5 |
| | | スポーツ指導者の倫理 | | | |
| | | 指導者の心構え・視点 | | | |
| | | 世界の舞台をめざすアスリートの発掘・育成の重要性と指導者の役割 | | | |
| | トレーニング論 I | 体力とは | 1.5 | 2.25 | 3.75 |
| | | トレーニングの進め方 | | | |
| | | トレーニングの種類 | | | |
| | スポーツ指導者に必要な医学的知識 I | スポーツと健康 | 3 | 4.5 | 7.5 |
| スポーツ活動中に多いケガや病気 | | | | | |
| 救急処置 | | | | | |
| スポーツと栄養 | スポーツと栄養 | 1 | 1.5 | 2.5 | |
| 指導計画と安全管理 | 指導計画の立て方 | 1.5 | 2.25 | 3.75 | |
| | スポーツ活動と安全管理 | | | | |
| ジュニア期のスポーツ | 発育発達期の身体的特徴、心理的特徴 | 2 | 3 | 5 | |
| | 発育発達期に多いケガや病気 | | | | |
| | 発育発達期のプログラム | | | | |
| 地域におけるスポーツ振興 | 地域におけるスポーツ振興策と行政のかかわり | 1.5 | 2.25 | 3.75 | |
| | 総合型地域スポーツクラブの必要性と社会的意義 | | | | |
| | 地域におけるスポーツクラブとしての「スポーツ少年団」 | | | | |
| | | | 14 | 21 | 35 |

| 区分 | 科目名 | 内容 | 時間数 | | |
|---------------|--------------|--------------------------|-----|------|-----|
| | | | 集合 | 自宅学習 | 計 |
| 共通科目Ⅱ | 社会の中のスポーツ | 社会の中のスポーツ | 2 | 3 | 5 |
| | | 我が国のスポーツプロモーション | | | |
| | スポーツと法 | スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任 | 2 | 3 | 5 |
| | | スポーツと人権 | | | |
| | スポーツの心理Ⅰ | スポーツと心 | 3 | 4.5 | 7.5 |
| | | スポーツにおける動機づけ | | | |
| | | コーチングの心理 | | | |
| | スポーツ組織の運営と事業 | 総合型地域スポーツクラブの育成と運営 | 4 | 6 | 10 |
| | | スポーツ組織のマネジメントと事業のマーケティング | | | |
| | | スポーツ事業のプロモーション | | | |
| 対象に合わせたスポーツ指導 | 中高年者とスポーツ | 3 | 4.5 | 7.5 | |
| | 女性とスポーツ | | | | |
| | 障害者とスポーツ | | | | |
| | | | 14 | 21 | 35 |

| 区分 | 科目名 | 内容 | 時間数 | | |
|-------------------|-----------------------------|---------------------------------|-----|------|------|
| | | | 集合 | 自宅学習 | 計 |
| 共通科目Ⅲ | 指導者の役割Ⅱ | プレーヤーと指導者の望ましい関係 | 3 | 4.5 | 7.5 |
| | | ミーティングの方法 | | | |
| | | 世界の頂点をめざすアスリートの育成・強化の在り方と指導者の役割 | | | |
| | アスリートの栄養・食事 | アスリートの栄養摂取と食生活 | 2 | 3 | 5 |
| | スポーツの心理Ⅱ | メンタルマネジメント | 4 | 6 | 10 |
| | | リラクゼーション | | | |
| | | イメージトレーニング | | | |
| | | 集中力のトレーニング | | | |
| | | 心理的コンディショニング | | | |
| | | あがり、スランプの克服 | | | |
| | | 指導者のメンタルマネジメント | | | |
| | 身体のしくみと働き | 運動器のしくみと働き | 4 | 6 | 10 |
| | | 呼吸循環器系の働きとエネルギー供給 | | | |
| | | スポーツバイオメカニクスの基礎 | | | |
| | トレーニング論Ⅱ | トレーニング理論とその方法 | 8 | 12 | 20 |
| トレーニング計画とその実際 | | | | | |
| 体力テストとその活用 | | | | | |
| スキルの獲得とその獲得過程 | | | | | |
| 競技者育成のための指導法 | トップアスリートを育てるために～指導者が持つべき視点～ | 4 | 6 | 10 | |
| | トップアスリートの育成・強化の方法とその評価 | | | | |
| | 競技力向上のためのチームマネジメント | | | | |
| | 競技力向上のための情報とその活用 | | | | |
| スポーツ指導者に必要な医学的知識Ⅱ | アスリートの健康管理 | 8 | 12 | 20 | |
| | アスリートの内科的障害と対策 | | | | |
| | アスリートの外傷・障害と対策 | | | | |
| | アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画 | | | | |
| | コンディショニングの手法 | | | | |
| | スポーツによる精神障害と対策 | | | | |
| | 特殊環境下での対応 | | | | |
| ドーピング防止 | | | | | |
| | | | 33 | 49.5 | 82.5 |

| 区分 | 科目名 | 内容 | 時間数 | | |
|------------------------|------------------|-------------------|-----|------|----|
| | | | 集合 | 自宅学習 | 計 |
| 共通科目Ⅳ | トップアスリートを取り巻く諸問題 | トップアスリートへの科学的サポート | 8 | 12 | 20 |
| | | 海外遠征の諸問題とその対応 | | | |
| | | 国際競技力向上のための環境 | | | |
| | | 情報戦略 | | | |
| | | 競技者を取り巻く環境 | | | |
| 指導能力を高めるためのスキルアッププログラム | コミュニケーションスキル | 8 | 12 | 20 | |
| | プレゼンテーションスキル | | | | |
| | | | 16 | 24 | 40 |

(5) 免除適応コースの実施状況

- ・ 「スポーツ指導者養成講習会 講習・試験免除承認システム」では、大学・短期大学、専門学校等が本会及び加盟団体等が定めるスポーツ指導者養成講習会カリキュラムと同等の教育課程を設定し、履修することにより、講習・試験の一部またはすべての免除を受けることが可能になっている。
- ・ 現在、共通科目Ⅰ～Ⅲおよび16の専門科目の履修が可能になっている。(免除適応コース)
- ・ 平成29年度現在、大学・短期大学219校、専門学校43校、計262校を免除適応コース承認校として承認している。

表3. 免除適応コース一覧

<共通科目コース>

| | コース名 |
|---|-----------|
| 1 | 共通科目Ⅰ＋Ⅱ |
| 2 | 共通科目Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ |

<専門科目コース>

| | コース名 |
|---|--------------|
| 1 | アスレティックトレーナー |
| 2 | ジュニアスポーツ指導員 |
| 3 | アシスタントマネジャー |
| 4 | スポーツプログラマー |
| 5 | 水泳指導員 |
| 6 | 水泳コーチ |
| 7 | 水泳教師 |
| 8 | テニス指導員 |

| | コース名 |
|----|-----------|
| 9 | テニス教師 |
| 10 | バレーボール指導員 |
| 11 | セーリング指導員 |
| 12 | 空手指導員 |
| 13 | ソフトテニス指導員 |
| 14 | エアロビック指導員 |
| 15 | エアロビック教師 |
| 16 | ハンドボールコーチ |

3. 公認スポーツ指導者の登録状況

(1) 登録者数

- ・ 公認スポーツ指導者資格について、講習・試験を修了した後、登録手続きをおこなうことによってはじめて公認スポーツ指導者として認定される。
- ・ 公認スポーツ指導者の資格有効期間は4年間であり、資格を更新するためには「更新のための義務研修」を受講する必要がある。一部の競技・資格においては、競技・資格ごとに定められている研修の要件を満たす必要がある。
- ・ 公認スポーツ指導者登録者数は、平成28年10月時点で497,345名(昨年比40,152名増/スポーツリーダーを除くと172,525名で前年比5,376名増)となっている。

表 4. 都道府県別登録者数一覧

| No. | 都道府県 | 競技別指導者資格 | | | | | | フィットネス資格 | | | メディカル・コンディショニング資格 | | | | マネジメント資格 | | 合計 |
|-----|------|----------|--------|--------|-------|-------|-------|----------|--------|----------|-------------------|-------|--------|------|----------|-------|---------|
| | | 指導員 | | コーチ | | 教師 | | スポーツ | フィットネス | ジュニアスポーツ | アスレティック | スポーツ | スポーツ | スポーツ | アシスタント | クラブ | |
| | | 指導員 | 上級指導員 | コーチ | 上級コーチ | 教師 | 上級教師 | プログラマー | トレーナー | 指導員 | トレーナー | ドクター | デンティスト | 栄養士 | マネジャー | マネジャー | |
| 1 | 北海道 | 4,771 | 633 | 568 | 145 | 258 | 122 | 230 | 54 | 260 | 112 | 243 | 5 | 8 | 260 | 24 | 7,693 |
| 2 | 青森県 | 1,386 | 182 | 185 | 65 | 13 | 8 | 35 | 1 | 32 | 11 | 97 | 2 | 3 | 87 | 4 | 2,111 |
| 3 | 岩手県 | 1,600 | 252 | 313 | 71 | 18 | 15 | 46 | 7 | 50 | 20 | 76 | 4 | 4 | 141 | 2 | 2,619 |
| 4 | 宮城県 | 1,841 | 174 | 278 | 107 | 35 | 22 | 48 | 7 | 101 | 36 | 106 | 2 | 1 | 115 | 4 | 2,877 |
| 5 | 秋田県 | 1,102 | 174 | 154 | 40 | 10 | 8 | 22 | 3 | 53 | 11 | 43 | 2 | 2 | 123 | 1 | 1,748 |
| 6 | 山形県 | 1,426 | 268 | 224 | 75 | 34 | 19 | 33 | 4 | 91 | 13 | 77 | 2 | 1 | 120 | 4 | 2,391 |
| 7 | 福島県 | 1,966 | 265 | 288 | 49 | 51 | 40 | 40 | 7 | 88 | 7 | 63 | 1 | 1 | 208 | 23 | 3,097 |
| 8 | 茨城県 | 2,533 | 319 | 466 | 145 | 55 | 21 | 57 | 8 | 103 | 66 | 112 | 2 | 3 | 132 | 13 | 4,035 |
| 9 | 栃木県 | 1,910 | 233 | 311 | 86 | 46 | 24 | 56 | 5 | 81 | 21 | 101 | 2 | 4 | 178 | 12 | 3,070 |
| 10 | 群馬県 | 2,000 | 366 | 372 | 102 | 54 | 26 | 184 | 7 | 72 | 26 | 174 | 2 | 5 | 95 | 6 | 3,491 |
| 11 | 埼玉県 | 5,827 | 689 | 960 | 261 | 202 | 59 | 253 | 30 | 239 | 177 | 147 | 5 | 10 | 204 | 12 | 9,075 |
| 12 | 千葉県 | 3,446 | 344 | 714 | 209 | 152 | 52 | 242 | 24 | 219 | 216 | 178 | 6 | 4 | 171 | 14 | 5,991 |
| 13 | 東京都 | 9,051 | 1,372 | 1,882 | 704 | 503 | 198 | 373 | 71 | 361 | 589 | 872 | 13 | 37 | 282 | 36 | 16,344 |
| 14 | 神奈川県 | 5,434 | 790 | 1,049 | 396 | 319 | 101 | 331 | 25 | 205 | 353 | 386 | 7 | 19 | 220 | 18 | 9,653 |
| 15 | 山梨県 | 1,482 | 126 | 233 | 86 | 20 | 9 | 135 | 5 | 42 | 18 | 43 | 2 | 0 | 65 | 4 | 2,270 |
| 16 | 長野県 | 2,938 | 253 | 374 | 81 | 108 | 72 | 56 | 11 | 86 | 45 | 108 | 3 | 6 | 156 | 6 | 4,303 |
| 17 | 新潟県 | 2,192 | 363 | 323 | 104 | 98 | 69 | 47 | 4 | 133 | 32 | 80 | 2 | 8 | 137 | 12 | 3,604 |
| 18 | 富山県 | 1,796 | 166 | 274 | 73 | 41 | 12 | 46 | 5 | 50 | 20 | 93 | 0 | 3 | 52 | 19 | 2,650 |
| 19 | 石川県 | 1,540 | 244 | 216 | 69 | 34 | 11 | 75 | 5 | 40 | 18 | 95 | 2 | 1 | 121 | 5 | 2,476 |
| 20 | 福井県 | 1,423 | 87 | 206 | 45 | 46 | 5 | 15 | 1 | 43 | 33 | 57 | 3 | 3 | 82 | 4 | 2,053 |
| 21 | 静岡県 | 4,234 | 429 | 593 | 223 | 88 | 26 | 90 | 13 | 145 | 114 | 114 | 2 | 9 | 134 | 9 | 6,223 |
| 22 | 愛知県 | 4,471 | 595 | 707 | 243 | 166 | 80 | 209 | 17 | 217 | 146 | 194 | 6 | 6 | 181 | 16 | 7,254 |
| 23 | 三重県 | 1,958 | 227 | 263 | 79 | 46 | 17 | 50 | 5 | 76 | 18 | 78 | 2 | 2 | 46 | 5 | 2,872 |
| 24 | 岐阜県 | 2,630 | 230 | 331 | 67 | 46 | 33 | 46 | 5 | 127 | 28 | 118 | 3 | 2 | 147 | 19 | 3,832 |
| 25 | 滋賀県 | 1,575 | 146 | 244 | 86 | 39 | 9 | 56 | 5 | 97 | 26 | 62 | 2 | 4 | 62 | 9 | 2,422 |
| 26 | 京都府 | 2,060 | 261 | 357 | 123 | 61 | 22 | 97 | 15 | 128 | 74 | 159 | 3 | 3 | 172 | 5 | 3,540 |
| 27 | 大阪府 | 4,414 | 659 | 756 | 376 | 189 | 54 | 181 | 68 | 250 | 243 | 205 | 9 | 6 | 167 | 10 | 7,587 |
| 28 | 兵庫県 | 3,523 | 434 | 551 | 214 | 90 | 44 | 81 | 16 | 178 | 125 | 196 | 4 | 12 | 140 | 9 | 5,617 |
| 29 | 奈良県 | 1,441 | 127 | 209 | 63 | 27 | 7 | 35 | 4 | 57 | 14 | 80 | 3 | 3 | 120 | 13 | 2,203 |
| 30 | 和歌山県 | 1,004 | 77 | 160 | 43 | 23 | 7 | 22 | 3 | 41 | 21 | 62 | 2 | 1 | 69 | 6 | 1,541 |
| 31 | 鳥取県 | 1,012 | 74 | 156 | 42 | 12 | 1 | 20 | 2 | 18 | 9 | 52 | 0 | 1 | 30 | 2 | 1,431 |
| 32 | 島根県 | 1,261 | 100 | 169 | 38 | 22 | 12 | 21 | 3 | 48 | 9 | 60 | 2 | 1 | 71 | 3 | 1,820 |
| 33 | 岡山県 | 1,513 | 184 | 266 | 90 | 40 | 6 | 29 | 3 | 65 | 31 | 109 | 2 | 4 | 78 | 6 | 2,426 |
| 34 | 広島県 | 2,693 | 228 | 338 | 140 | 57 | 23 | 58 | 5 | 83 | 40 | 107 | 3 | 3 | 86 | 6 | 3,870 |
| 35 | 山口県 | 1,507 | 114 | 246 | 58 | 16 | 10 | 35 | 3 | 73 | 10 | 65 | 2 | 1 | 62 | 3 | 2,205 |
| 36 | 香川県 | 1,287 | 145 | 211 | 55 | 25 | 8 | 35 | 1 | 69 | 23 | 69 | 2 | 1 | 69 | 3 | 2,003 |
| 37 | 徳島県 | 928 | 41 | 158 | 41 | 17 | 5 | 35 | 1 | 51 | 17 | 51 | 2 | 2 | 81 | 3 | 1,433 |
| 38 | 愛媛県 | 1,984 | 200 | 254 | 65 | 22 | 7 | 36 | 4 | 50 | 22 | 95 | 3 | 6 | 104 | 7 | 2,859 |
| 39 | 高知県 | 937 | 72 | 144 | 39 | 6 | 3 | 13 | 1 | 24 | 13 | 70 | 1 | 1 | 74 | 1 | 1,399 |
| 40 | 福岡県 | 2,424 | 222 | 472 | 146 | 92 | 26 | 48 | 1 | 100 | 92 | 188 | 3 | 9 | 133 | 5 | 3,961 |
| 41 | 佐賀県 | 1,004 | 59 | 171 | 42 | 4 | 3 | 12 | 0 | 27 | 23 | 48 | 2 | 0 | 61 | 4 | 1,460 |
| 42 | 長崎県 | 1,473 | 93 | 214 | 45 | 10 | 5 | 14 | 2 | 27 | 16 | 78 | 3 | 0 | 52 | 5 | 2,037 |
| 43 | 熊本県 | 1,673 | 268 | 269 | 73 | 15 | 2 | 36 | 2 | 59 | 32 | 71 | 1 | 4 | 150 | 9 | 2,664 |
| 44 | 大分県 | 1,285 | 115 | 205 | 59 | 19 | 3 | 16 | 2 | 38 | 13 | 94 | 2 | 3 | 82 | 1 | 1,937 |
| 45 | 宮崎県 | 1,235 | 97 | 182 | 44 | 13 | 2 | 11 | 3 | 47 | 14 | 66 | 1 | 0 | 84 | 6 | 1,805 |
| 46 | 鹿児島県 | 1,810 | 158 | 280 | 47 | 33 | 9 | 14 | 1 | 60 | 17 | 104 | 2 | 3 | 46 | 6 | 2,590 |
| 47 | 沖縄県 | 1,381 | 109 | 189 | 38 | 15 | 8 | 23 | 3 | 40 | 13 | 60 | 2 | 2 | 101 | 3 | 1,983 |
| | 合計 | 108,381 | 12,764 | 17,481 | 5,492 | 3,290 | 1,325 | 3,647 | 472 | 4,544 | 3,027 | 5,806 | 136 | 212 | 5,551 | 397 | 172,525 |

※スポーツリーダー・スポーツトレーナー資格を除く

- ・ 競技別資格でみると、サッカーの 35,547 名がもっとも多く、以下、水泳、バレーボール、ソフトボールと続いている。

表 5. 競技別登録者数一覧

| 競技 | 資格 | | 指導員 | | コーチ | | 教師 | | 合計 |
|----------------------|---------|--------|--------|-------|-------|-------|---------|--|----|
| | 指導員 | 上級指導員 | コーチ | 上級コーチ | 教師 | 上級教師 | | | |
| 1 陸上競技 | 2,146 | 93 | 832 | 234 | - | - | 3,305 | | |
| 2 水泳 | 9,901 | 1,495 | 2,461 | 796 | 2,237 | 453 | 17,343 | | |
| 3 サッカー | 28,889 | - | 4,572 | 2,086 | - | - | 35,547 | | |
| 4 スキー | 665 | 2,697 | 91 | 13 | 300 | 333 | 4,099 | | |
| 5 テニス | 2,409 | 1,267 | 313 | 243 | 342 | 149 | 4,723 | | |
| 6 ボート | 403 | 2 | 283 | 66 | - | - | 754 | | |
| 7 ホッケー | 192 | 0 | 437 | 89 | - | - | 718 | | |
| 8 ボクシング | 7 | - | 264 | 17 | - | - | 288 | | |
| 9 バレーボール | 13,909 | 863 | 581 | 406 | - | - | 15,759 | | |
| 10 体操 | 610 | 176 | 959 | 68 | - | - | 1,813 | | |
| 11 バasketボール | 7,846 | 104 | 683 | 134 | - | - | 8,767 | | |
| 12 スケート | 356 | - | 206 | 58 | 80 | - | 700 | | |
| 13 レスリング | 262 | 1 | 1 | 22 | - | - | 286 | | |
| 14 セーリング | 312 | 130 | 122 | 78 | - | - | 642 | | |
| 15 ウェイトリフティング | 129 | 0 | 133 | 50 | - | - | 312 | | |
| 16 ハンドボール | 994 | 46 | 464 | 87 | - | - | 1,591 | | |
| 17 自転車競技 | 258 | 1 | 287 | 31 | - | - | 577 | | |
| 18 ソフトテニス | 2,351 | 379 | 274 | 20 | - | - | 3,024 | | |
| 19 卓球 | 1,534 | 980 | 560 | 87 | - | - | 3,161 | | |
| 20 軟式野球 | 1,857 | 0 | 209 | 1 | - | - | 2,067 | | |
| 21 相撲 | 252 | 0 | - | - | - | - | 252 | | |
| 22 馬術 | 42 | - | 338 | 0 | - | - | 380 | | |
| 23 柔道 | 373 | - | 376 | 49 | - | - | 798 | | |
| 24 ソフトボール | 11,689 | 702 | 243 | 57 | - | - | 12,691 | | |
| 25 フェンシング | 406 | 0 | 90 | 46 | - | - | 542 | | |
| 26 バドミントン | 2,185 | 451 | 310 | 67 | - | - | 3,013 | | |
| 27 弓道 | 4,203 | 401 | 83 | - | - | - | 4,687 | | |
| 28 ライフル射撃 | 7 | 0 | 246 | 18 | - | - | 271 | | |
| 29 剣道 | 1,542 | 288 | - | - | - | - | 1,830 | | |
| 30 近代五種 | 0 | 0 | 19 | 4 | - | - | 23 | | |
| 31 ラグビーフットボール | 958 | 57 | 694 | 119 | - | - | 1,828 | | |
| 32 山岳 | 890 | 1,011 | 60 | 72 | - | - | 2,033 | | |
| 33 スポーツクライミング | 315 | 82 | 10 | - | - | - | 407 | | |
| 34 カヌー | 182 | 6 | 252 | 22 | - | - | 462 | | |
| 35 アーチェリー | 640 | 17 | 40 | - | - | - | 697 | | |
| 36 空手道 | 2,498 | 1,151 | 617 | 367 | - | - | 4,633 | | |
| 37 アイスホッケー | 338 | 0 | 0 | 4 | - | - | 342 | | |
| 38 銃剣道 | 740 | 47 | 0 | - | - | - | 787 | | |
| 39 クレー射撃 | 322 | - | 3 | 0 | - | - | 325 | | |
| 40 なぎなた | 917 | 99 | 124 | 38 | - | - | 1,178 | | |
| 41 ボウリング | 783 | 6 | 140 | 7 | 0 | 0 | 936 | | |
| 42 ボブスレー・リュージュ・スケルトン | - | - | 3 | 8 | - | - | 11 | | |
| 43 綱引 | 52 | - | - | - | - | - | 52 | | |
| 44 ゲートボール | 1,151 | 0 | - | - | - | - | 1,151 | | |
| 45 カーリング | 322 | 79 | 0 | 0 | - | - | 401 | | |
| 46 パワーリフティング | 184 | 0 | - | - | - | - | 184 | | |
| 47 グラウンド・ゴルフ | 181 | - | - | - | - | - | 181 | | |
| 48 トライアスロン | 279 | - | - | - | - | - | 279 | | |
| 49 ゴルフ | 209 | - | - | - | - | - | 209 | | |
| 50 バウンドテニス | 40 | 2 | - | - | - | - | 42 | | |
| 51 エアロビク | 703 | 54 | 0 | 26 | 14 | 0 | 797 | | |
| 52 バイアスロン | 2 | 0 | 30 | 2 | - | - | 34 | | |
| 53 ドッジボール | 1 | - | - | - | - | - | 1 | | |
| 54 ローラースポーツ | 0 | - | - | - | - | - | 0 | | |
| 55 ダンススポーツ | 221 | - | 71 | - | - | - | 292 | | |
| 56 アメリカンフットボール | 284 | - | 0 | - | - | - | 284 | | |
| 57 プロゴルフ | - | - | - | - | 106 | 127 | 233 | | |
| 58 プロテニス | - | - | - | - | 173 | 157 | 330 | | |
| 59 プロスキー | - | - | - | - | 38 | 106 | 144 | | |
| 60 スクーバ・ダイビング | 390 | 77 | - | - | - | - | 467 | | |
| 61 その他 | 50 | - | - | - | - | - | 50 | | |
| 合計 | 108,381 | 12,764 | 17,481 | 5,492 | 3,290 | 1,325 | 148,733 | | |

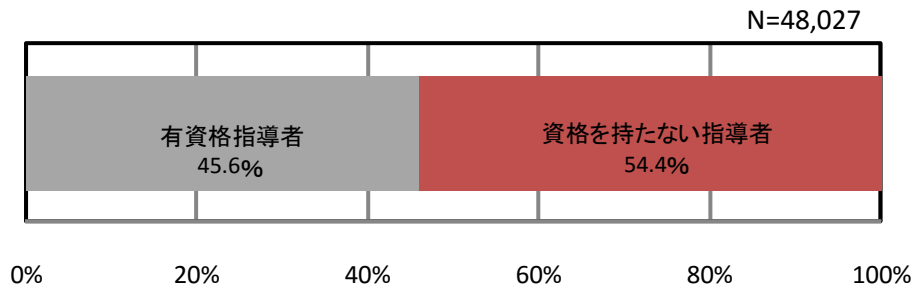
(2) 更新のための義務研修

- 公認スポーツ指導者の資格有効期間は4年間と定められており、資格更新するためには、有効期限の6か月前まで(認定日から3年6か月以内)に更新のための義務研修を受けることが義務付けられている。
- 義務研修は、単に資格を更新するためだけのものではなく、指導者がスポーツに関する最新の知識・情報等を獲得し、国民のスポーツに対するニーズを敏感に捉えて、実際の指導場面に活用できるようにその資質を向上させるとともに、指導者の情報交換やネットワークづくりなど、相互の交流を図ることを目的として開催している。
- 義務研修は、日体協および加盟団体等が開催している。
- なお、水泳、サッカー、テニス、バドミントン、剣道、空手道、バウンドテニス、エアロビック(上級コーチのみ)、チアリーディング(コーチのみ)、スクーバ・ダイビング、スポーツドクター、スポーツデンティスト、アスレティックトレーナー、スポーツ栄養士、クラブマネージャー、プロゴルフ(教師・上級教師)、プロテニス、プロスキーの資格者については、それぞれ定められた研修を受けなければ資格を更新できないことになっている(平成29年4月1日現在)。
- 更新のための義務研修の受講率は、平成28年10月更新対象者で81.1%となっている。

4. 公認スポーツ指導者の活用状況

(1) 総合型地域スポーツクラブにおける資格保有率

- ・ 図1に示すとおり、総合型地域スポーツクラブに所属する指導者のうち、有資格指導者（注：公認スポーツ指導者以外の資格者も含む）は45.6%であった。



「平成28年度総合型地域スポーツクラブに関する実態調査結果」より

図1. 総合型地域スポーツクラブにおける資格保有率

(2) 大会等における資格保有義務付け状況

- ・ 国民体育大会においては、平成28年（2016年）開催の第71回冬季大会より資格保有義務付けが完全実施された。
- ・ 日本スポーツマスターズでは、表6のとおり監督やコーチに対して資格の義務付け等を行っている。
- ・ 競技団体主催大会における監督・チームスタッフの資格保有義務付け状況としては、9団体が義務付けを行っている（平成28年調査）。

表 6. 日本スポーツマスターズ大会における監督等の資格保有条件

| 競技名 | 日本スポーツマスターズ2016大会実施要項から抜粋 |
|------------|--|
| 0 開催基準要項 | 総則 7.参加者(2)①参加資格：監督は、原則として日本体育協会が別に定める「公認スポーツ指導者制度」に基づく、当該競技団体が定める公認資格を有する者とする。 (平成26年2月28日改定) |
| 1 水泳 | 監督については、公認水泳コーチ・公認水泳上級コーチ、公認水泳教師・公認水泳上級教師、公認水泳指導員・公認水泳上級指導員の資格を有する者とする。(指導者資格は、(公財)日本体育協会公認資格とする) |
| 2 サッカー | 監督は、日本サッカー協会公認コーチ(C、B、A、S級)の資格を有する者。 |
| 3 テニス | 各都道府県の監督をする者は、日本体育協会公認テニス指導員・上級指導員・教師・上級教師・コーチ・上級コーチのいずれかの資格を有することが望ましい。 |
| 4 バレーボール | 監督・コーチ・マネージャーのうち1名以上は、日本体育協会公認バレーボールコーチ・上級コーチ・指導員・上級指導員の有資格者とする。(注)参加申込みの際は、資格を証明する登録証又は認定証の写しを添付すること。 |
| 5 バスケットボール | 監督については、日本体育協会公認バスケットボールコーチ・上級コーチ・指導員・上級指導員のいずれかの資格及び平成28年度JBA公認C級コーチ以上の資格を有する者とする。また、トレーナー及びスポーツドクターは日本体育協会公認資格を有することが望ましい。 |
| 6 自転車競技 | 日本体育協会公認自転車競技指導者(指導員・コーチ・上級コーチ)の資格を有する者、もしくは日本自転車競技連盟ヘチームアテンダントとして登録している者が望ましい。ただし、本大会は日本自転車競技連盟登録競技者および審判員資格所有者も認める。 |
| 7 ソフトテニス | 監督は、日本体育協会公認ソフトテニス指導員・上級指導員・コーチ・上級コーチのいずれかの資格を有することが望ましい。 |
| 8 軟式野球 | 本大会に参加する監督は下記のいずれかの資格を有することが望ましい。 ①日本体育協会公認軟式野球コーチ・上級コーチ ②日本体育協会公認軟式野球指導員・上級指導員 |
| 9 ソフトボール | 本大会に参加する監督、コーチは、下記の①～③のいずれかの資格を有すること。監督・コーチが資格を有していない場合においては、チーム内に有資格者(監督代行になり得る者)がいなければならない。①日本体育協会公認ソフトボールコーチ・上級コーチ ②日本体育協会公認ソフトボール指導員・上級指導員 ③日本ソフトボール協会公認ソフトボール準指導員 |
| 10 バドミントン | 監督は、公益財団法人日本体育協会公認バドミントンコーチ・上級コーチ・指導員・上級指導員資格のいずれかを原則として有する者。 |
| 11 空手道 | 監督については、全日本空手道連盟公認全国・地区審判員と日本体育協会公認空手道指導員・上級指導員・コーチ・上級コーチのいずれかの資格を有する者。 |
| 12 ボウリング | 各チームの監督は、選手を兼ねることができるが、日本体育協会公認スポーツ指導者制度に基づく、公認ボウリングコーチ・上級コーチ・指導員・上級指導員のいずれかの資格を有する者に限る。 |
| 13 ゴルフ | 監督は、原則として日本体育協会が別に定める「公認スポーツ指導者制度」に基づく、当該競技団体が定める公認資格を有する者とする。 |

(3) 中学校・高校教員の活動状況

- ・2016年4月期、10月期の更新登録対象者41,499名のうち、「指導者マイページ」を利用して手続きした者を対象に「指導者調査」を実施。4月期：5,073名、10月期：20,196名、計25,269名から回答を得た。
- ・全回答者のうち、現在の活動領域を中学校スポーツとした者は、6,263名となり、全体の27.2%。高校スポーツとした者は、6,897名の30.0%だった。
- ・全回答者のうち、職業を中学校教員と回答した者は1,124名となり、全体の4.4%。高校教員との回答は2,932名の11.6%だった。
- ・中学校教員のうち、現在の活動領域を中学校スポーツとした者は、996名(3.9%)。高校教員のうち、現在の活動領域を高校スポーツとした者は、2,630名(10.4%)だった。

**フェアプレイで
日本を元気に**

あくしゅ、あいさつ、ありがとう

